



あなたの応援が、
復興への
一歩になる。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

ニュースレター(2013.3.19 第4号)

活動報告

第3期活動を終了し、第4期活動を開始しました

第3期活動について

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、1月31日をもって第3期活動の寄附募集期間を終了しました。全国の304法人・企業と31名の個人(2013年1月31日時点)にご参加いただき、頂戴した総額2億6,350万2,465円のご厚志を被災地にお届けしました。具体的には、募集要項に従い、岩手、宮城、福島の被災した県立専門高校にそれぞれ7,886万円相当、4,437万円相当、1億635万円相当の実習機材を贈呈¹した他、岩手大学に1,100万円、東北大学に300万円、宮城大学に約890万円をお届けしました。また、みやぎこども育英募金に約300万円、ふくしまこども寄附金に800万円の寄附を実施しました。

2月28日には、盛岡市において、高橋真裕・岩手経済同友会代表幹事より、達増拓也・岩手県知事に目録を贈呈しました。達増知事は「皆様には、岩手県下の教育再生に多大なお力添えをいただき感謝している。有為の人材を育成することこそ最大の御礼と考え、教育行政に取り組んでいく」とのお言葉を頂戴しました。

¹ 各校が要望する機材の納期の都合上、宮城県の専門高校への支援額が小さくなっておりませんが、第4期で納品するため、通算では同程度の支援額となる予定です。

また、3月11日には、仙台市において、長谷川閑史・共同委員長(経済同友会代表幹事)より、村井嘉浩・宮城県知事に目録の贈呈を行いました。村井知事は、「全国の皆様より過分な支援をいただき、心より感謝申し上げます。5年間にわたるご支援に応えられるよう復興に全力を尽くす」と感謝の言葉を述べられました。



左側：高橋・岩手経済同友会代表幹事、右側：達増・岩手県知事(2013年2月28日事務局撮影)



左側：長谷川・共同委員長、右側：村井・宮城県知事(2013年3月11日事務局撮影)

第4期活動について

3月1日より第4期活動を開始しました。寄附募集期間は、7月31日までとなります。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします(詳細な内容については、[公式HP](#)をご参照ください)。

岩手県立高田高校より手紙を頂戴しました

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、第1期～第3期活動において、岩手県立高田高校に対し、水産加工実習に使用するマーク押機・卓上フードカッターなどを贈呈しました。

1月中旬に同校を事務局が訪問したところ、仮校舎での実習授業を再開されており、海洋システム科食品コースの生徒たちが本プロジェクトより寄贈した機材を使用して缶詰製作やパン焼きの実習に取り組んでいました。

工藤良裕・校長からは、「元々、実習を行いたくて入学した生徒ばかり。皆様の支援のおかげで実習授業が再開できて、学校に活気が戻ってきた」とのお話がありました。



缶詰製作実習の様子(1月16日高田高校、事務局撮影)



パン焼きの実習授業の様子(1月16日高田高校、事務局撮影)

なお、本プロジェクトでは、高田高校に対して、水産加工実習用の機材の他、潜水実習・水上実習用の各種機材も寄贈しております。昨年までは、これらの実習を行うため、秋田県立男鹿海洋高校を泊りがけで訪問し、各種施設を借りて授業を行っていましたが、今春以降は仮校舎近郊にて行う予定とのことでした。

また、同校海洋システム科食品コースの3年生達からもお手紙を頂戴しましたので、一部をご紹介します。

及川源一郎

自分たちはあの震災でたくさんの実習設備を失いました。しかし、その復旧はとても早いものでした。全国の皆さんからの支援です。その支援のおかげで自分たちはすぐに実習を再開し、缶詰やパンなどを作れるようになったのだと思います。去年は十分な実習ができず、秋田の水産高校へ行き、共同で実習させていただいたものの、自分たちだけの力では全然できませんでした。

これからは自分たちの授業で実習ができるようになります。そのことを当たり前だとは決して思いません。自分たちのためにたくさんの支援があったんだということの後輩に伝えながら、地域に伝えながら皆さんのおかげで楽しめる、残りの学校生活を送ってみたいです。

菅野直斗

私たちは被災し、実習などができなくなり、とても大変でした。今は旧大船渡農業高校を使って勉強や実習をしています。実習ではなかなか缶詰などが作れず大変な思いをしてきました。そして皆様からたくさんの支

援を受け、実習で使うものなどが次第に増えていき、やっと缶詰の製造ができる様になりました。とても感謝しています。そしてとてもおいしい缶詰を作っていきたいと思います。本当にたくさんの支援をありがとうございます。

菊池 雄大

様々な実習設備の支援ありがとうございます。震災後全ての実習設備を失い、これまでと同じ実習は望めないと思っていました。こんな中 経済同友会の皆様の支援により、実習ができる様になったことはとてもうれしいです。いただいたオートクレープなどで作った缶詰はとてもおいしくでき、今では近くのイベントなどで製品として、売らせていただくまでになりました。

毎日の学校生活の中でようやく海洋システム科としての日常が戻ってきた様な気がします。そして僕は様々な実習を通し、卒業後は水産加工関係の仕事をしたいと考える様になりました。このような目標を見つけたのもたくさんの支援のおかげです。本当にありがとうございます。

新沼 浩昭

中学生の時から食品製造の知識や技術を学ぶために海洋システム科に入ろうと考えていました。ですから1年生の時に震災に遭い校舎が亡くなってしまったときは、楽しみにしていた2年生からの専門の実習ができなくなりました。

2年生になり、仮校舎に移り授業や部活などは以前の様に見える環境になりましたが、心配していたとおり、実習を行える様な設備はなく、食品製造が学べずとても残念な気持ちでした。

しかし3年生になるころから、経済同友会の方々からの支援を受け、徐々に実習設備が整ってきました。今ではほとんど不自由することなく実習をすることができます。高校に入った私の本来の目的である、食品製造について学べる環境を与えてくださった経済同友会の方々にとっても感謝しております。

新沼 宏輝

震災後 学校には実習する機械など道具がありません

でした。この中で本当に実習ができるのかと思っていました。本当は実習の授業なのに設備もないので座学がメインで、早く実習がしたいと心の中でずっと思っていました。少しずつ実習ができる設備ができた本当にうれしいです。ちゃんとした実習場ではないですが、支援を受けてここまで実習場らしくなりました。缶詰やパンを製造できる様になり、実習しているいろいろなことを学べます。実習ができることを心から感謝しております。ありがとうございます。



文化祭での販売の様様(昨年 8 月 26 日、高田高校提供)



陸前高田市産業まつりへの出店(昨年 11 月 4 日、高田高校提供)



被災した校舎の撤去工事の様子(1月16日事務局撮影)。新校舎は2015年3月に完成する予定。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

～ご支援・ご協力のお願い～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災からの復興を支援するため、全国の経済同友会の皆様と連携し、2011年7月14日に発足いたしました。被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会の皆様の協力をいただきながら、将来を担う若者たちへきめ細かいサポートを行うべく、支援内容を検討し、真に支援を必要とする人に対してきめ細かい支援を実施しております。

これまで(2013年3月18日現在)に、法人314社・個人34名にご参加をいただき、第1期～第3期活動を通じて、合計8億7,313万7,525円のご厚志を皆様より頂戴し、岩手、宮城、福島の三県の被災した専門高校への実習機材の提供、震災で保護者を亡くされた子どもたちの生活・就学支援を行う「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英募金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」への支援、さらに地域の人材育成の要である国公立大学(岩手大学、東北大学、宮城大学)への寄附により、全額を被災地の復興に向けて活用させていただきました。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、これからもご参加企業・個人の皆様、被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会をはじめとする全国の経済同友会と力を合わせ、参加企業や個人の応援が復興への一歩になり、被災地が真の復興に向けて“一步一步”進んでいくように息の長い支援活動を展開してまいります。

3月1日に開始した第4期活動(寄附募集期間:2013年7月31日まで)では、これまでの人づくりと産業活性化という視点を踏襲するとともに、特に大きな被害を受けた沿岸部の専門高校に重点化し、地場の産業を担う若者の育成につながる実習機材の提供を中心に各種援助を実施いたします。また、昨年に引き続いて、出張授業の実施や参加企業による被災地視察など、多面的な活動を展開していく所存であります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

共同委員長 長谷川 閑 史
箕 浦 輝 幸